

財団法人国際教育振興会主催 第9回「英語教育方法研究セミナー」 実施要領

【開催の趣旨および目的】

国際社会で通用する実用英語能力を備えた人材を育成するため、日本の中等教育課程における英語教育方法の改善が喫緊の課題とされています。同時に、教員の皆様ご自身の実用英語能力を磨いていくことが、ますます必要とされています。

現在、大学生や社会人の英語学習者の大部分は、「発信型の上級実用英語」（口頭発表力、英文作成力）の習得を目指しても、中学・高校での英文法、英作文などの学習が「発信型」の観点から十分に應用練習されていなかったため、これら基礎部分の再学習を余儀なくされています。それは単に発音や聴き取りに関わる部分の問題ではありません。現状改善のためには、中学・高校の英語教育方法の中でさらに「発信指向」を強調することが必要と考えられます。

本セミナーは、教員の皆様の発信用英語能力や英語・英語教育に関する知識を増強することに主眼を置き、「観光や買い物」の次元に止まらずさらに上級の英語力を習得しようとする向学心のある若い学生を、中学・高等学校の教員が現在どのように指導することが望ましいのかとの観点から、皆様がその教育方法をご自身で考察する際の一助としていただくことを目的としています。

実施要領

実施要領					
主催	財団法人国際教育振興会	後援	文部科学省	協力	日米会話学院
日程	2009年7月27日(月)～7月29日(水)の3日間。詳細は裏面をご参照下さい。				
会場	日米会話学院 四谷新校舎 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目21番地 (JR中央線・総武線、地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅より徒歩3分)				
参加資格	中学・高校の英語教員、英語教員志望の大学生、英語教育に関心のある一般社会人など				
定員	50名				
費用	受講料：20,000円(教材費を含みます)				
申込方法	申込書を郵便またはファックスにてお送り下さるか、 申込書記載事項をemailにてお送り下さい。 受付後1週間以内に、受講料の納入方法についてお知らせいたします。				
申込締切	2009年7月10日(金)(先着順。定員になり次第締切) *セミナー当日までにお読みいただく資料等を7月初旬にお送りする予定ですので、6月中にお申込み下さいますことをお勧めいたします。				
お問合せ・お申込み先	〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目21番地 財団法人国際教育振興会 「英語教育方法研究セミナー」係 山田、青柳 電話：03-3359-9621(代表) FAX：03-3353-8908 email: info@nichibei.ac.jp Homepage: http://www.iec-nichibei.or.jp				

－ セミナーの概要 －

7月27日(月)	セッション1 10:00～12:00 「英語表現力養成の基本は読解と音読にあり」(日本語による講演) 大学生や社会人のための実用英語学習の場で、共通の英文法・用語法の弱点や読解力不足の実例を見ます。『受信型英語』の基礎固めをいかに『発信型英語』習得に連動させていけば良いのか、英文を読む力と教育方法を工夫される際の参考としていただきます。 講師: 大井 孝(国際教育振興会理事長、日米会話学院院長、東京学芸大学名誉教授)
	セッション2 13:00～15:00 「実用和文英訳演習」(日英両国語) 講師: Sarah Allen(M.A., Humanities, The Univ. of Chicago. B.A., Philosophy, Univ. of Florida. フリーランス翻訳者)
	セッション3 15:10～16:40 「英語で学ぶ、英語で教える」—非英語圏にみられる英語を教育媒体とする動向—(日本語) 2013年4月から実施される新指導要領では、高校における英語の授業は「英語で行うことを基本とする」ことが明記された。これは教育媒体言語の変更という言語政策上大きな改定であり、広く議論を呼んでいる。アジア、ヨーロッパ等の非英語圏においても英語教科のみならず、他の教科においても英語で授業を行う動きが広がりを見せている。こうした海外の事例、大学レベルでの事例を参考にしながら、日本において「英語で学ぶ、英語で教える」ことの意義を議論する。 講師: 飯野 公一(早稲田大学国際教養学部教授)
7月28日(火)	セッション4 10:00～12:00 「スピーチの基礎と指導方法」(英語) 講師: Anthony Demko(日米会話学院専任講師、ACTFL 試験官の指導資格者)
	セッション5 13:00～14:30 「文化と言語の壁を越えて仕事をする: 異文化チームのツールとしての英語を考える」(英語) この1年で日本の経済と企業を取り巻く環境が大きく変化し、今年、就職活動をしている学生は極めて厳しい状況にあります。そのような中において、「仕事のあり方」そのものが大きく変わりつつあるように思います。ひとつの企業にしがみついただけではなく、個人が力を蓄えて、いかなる変化にも対応できるように「体力」をつけなくてはなりません。その基礎体力のひとつが英語ではないでしょうか? 様々な文化的背景(国籍、言語など)の人々と協働する時に、ツールとして必要不可欠である英語について、一緒に考えてみたいと思います。なお、この講義は英語で行う予定です。 講師: 馬越 恵美子(桜美林大学・ビジネスマネジメント学群・教授、NHK ラジオ「ものしり英語塾」講師、異文化経営学会会長) 著書: 『異文化経営論の展開』(学文社)、『心根(マインドウェア)の経営学』(新評論)、『NHK ラジオ・ビジネス英会話・土曜サロン・ベストセレクション基礎編』(DHC)、『ウェブ時代の英語術』(NHK 出版)
	セッション6 14:40～16:40 「Being Bookish in the Age of Digital Media」(英語) We consider the shifting definition of text and reading within the context of pedagogy and learning. In an era when print media appear to be in retreat, what does it mean to teach “reading” or to teach a “text”? How have our own understanding and our students’ understanding of reading shifted with the rise of digital media? What place is left for books? We consider these questions with an eye to making ourselves better teachers within the constantly changing world of reading. 講師: Jonathan Hall(米国カリフォルニア大学助教授[比較文学])
7月29日(水)	セッション7 10:00～12:00 「一貫制英語教育構想: 言語政策の視点からの提案」(日本語) 政府には全国に500の中高一貫学校を設置する構想があるという。現在はおおよそ180校が稼働している。2011年度よりは小学校5年生から実質的に英語は必修化される。今後は小-中の連携、中-高の連携、さらには小-中-高の連携強化が大きな課題となっていくであろう。大学を頂点とする現在の逆三角形型英語構造ではなく、小学校から始まる正三角形型英語構造による本来的な英語教育の実現のための準備が今後の大きな課題となる。小、中、高の新学習指導要領が整った今、一貫制英語教育構想のモデルを444制に求め、目的論、方法論、評価論の3点より紹介し、今後の日本の英語教育のあるべき姿を展望していく。 講師: 木村 松雄(青山学院大学大学院教授、青山学院英語教育研究センター所長、社団法人大学英語教育学会(JACET)理事、NHK「基礎英語1」講師)
	セッション8 13:00～16:30 「授業省察と授業法改善: 授業における英語使用を中心に」(日本語) 新学習指導要領ではコミュニケーション能力の向上のために4技能の総合的な指導、4技能統合指導のスキルが求められています。4技能の総合的な指導や4技能統合の指導には、授業における英語使用が教師にも生徒にも不可欠になります。このセッションでは、日常的な授業を省察し、授業における英語使用の場面と方法を検討し、授業の中で効果的に英語を用いることができることを目指します。 講師: 緑川 日出子(昭和女子大学大学院言語コミュニケーション専攻教授) 著書: 「リーディング指導法事典」(共著)「英語コミュニケーションの指導」(共著)(研究社出版)
	懇親会 16:40～18:10(任意参加)

* 各セッションは質疑応答の時間を含みます。また、セッション内で10分程度の休憩を取ります。

第 9 回「英語教育方法研究セミナー」申込書

受付番号:

受付日:

氏名	(ローマ字)		
	(漢字)		
年齢	<input type="checkbox"/> 20～29歳 <input type="checkbox"/> 30～39歳 <input type="checkbox"/> 40～49歳	性別	
	<input type="checkbox"/> 50～59歳 <input type="checkbox"/> 60～69歳 <input type="checkbox"/> 70歳～		
自宅住所	〒	TEL	
		FAX	
Email Address			
懇親会	<input type="checkbox"/> 参加 / <input type="checkbox"/> 不参加	参加費	<input type="checkbox"/> 自費 / <input type="checkbox"/> 公費
職業	教員(<input type="checkbox"/> 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高校 <input type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 語学学校) その他()		
勤務先/学校名			
ご意見・ご要望			

【申込書ご記入の際のお願い】

○太枠欄は必ずご記入下さい。その他の欄は、お差し支えない範囲でご記入頂ければ幸いです。

○email アドレスをお知らせいただいた場合、当方からのご連絡事項は主に email にて送信させていただきます。

【個人情報保護について】

皆様の個人情報は、当セミナーの運営、当振興会主催および協賛の催物のご案内にのみ利用させていただきます。個人情報取り扱いに関する安全管理措置契約をあらかじめ締結した発送代行委託先以外の第三者に皆様の個人情報を渡すことはいたしません。

— 昨年のセミナーに参加された皆様のコメント抜粋 —

【参加の動機】

- ・英語指導力の向上と自身の英語力をのばすヒントを得るため
- ・研修に参加することにより刺激を受け、自分の教え方や学び方を再確認するため

【感想】

- ・大変興味深い内容で楽しみながら受講しました。何よりも宿題が指定され、それを生かした講義でしたので、非常に充実感がありました。
- ・まわりの受講者のレベルが高く、刺激になりました。
- ・次の授業に生かせることを教えて頂き、ありがとうございました。

財団法人国際教育振興会は、官庁・企業などの要請により英語教育を通し国際人として視野の広い教養ある市民を養成するための研修機関として 1945 年に設立された「**日米会話学院**」の設置者です。「**日本語研修所**」の運営、欧米の著名大学・大学院の日本研修支援、「外国人による日本語弁論大会」(NHK 放送)、各種講演会、戦前から行われている「日米学生会議」の開催など、幅広い語学教育・国際交流事業を展開しています。

今年の「**外国人による日本語弁論大会**」は、**2009 年 5 月 30 日(土)北海道函館市にて開催**いたします。各事業詳細については、ホームページをご参照下さい。(http://www.nichibei.ac.jp)
